

社会福祉法人鹿児島県保育連合会定款

第1章 総則

(目的)

第1条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫して、児童の福祉の増進及び児童の個人の尊厳を守り、心身ともに健やかに育成されよう総合的に支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

- (1) 第二種社会福祉事業
 - (イ) 保育所の経営
 - (ロ) 地域子育て支援拠点事業
 - (ハ) 一時預かり事業
 - (ニ) 放課後児童健全育成事業
 - (ホ) 児童の福祉の増進について相談に応ずる事業
 - (ヘ) 児童の福祉を目的とする事業に関する連絡調整又は助成を行う事業
- 2 子育て支援の事業の発展と、すべての子どもの育ちを地域社会と一体となって支えることを目的として、次の事業を行う。
 - (1) 児童の福祉を目的とする事業にかかわる調査、普及、宣伝に関する事業
 - (2) 児童の福祉を目的とする事業の企画と実施
 - (3) 児童の福祉を目的とする事業を経営する者への支援に関する事業
 - (4) 児童の福祉を目的とする事業に従事する者の養成及び研修
 - (5) 児童の福祉を目的とする事業所等の相互の連絡及び事業の調整

(名称)

第2条 この法人は、社会福祉法人鹿児島県保育連合会という。

(経営の原則等)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

- 2 この法人は、地域社会の貢献する取組として、子育て世帯等を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

(事務所の所在地)

第4条 この法人の事務所を鹿児島県鹿児島市鴨池2丁目30-8鹿児島県老人福祉会館内に置く。

2 前項のほか、従たる事務所を鹿児島県西之表市16314番地4に置く

第2章 評議員

(評議員の定数)

第5条 この法人に評議員7名以上14名以内を置き、理事数を超える数とする。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会（以下「委員会」という。）を置き、評議員の選任及び解任は、委員会において行う。

2 委員会は、監事3名、事務局員1名、外部委員2名の合計6名で構成する。

3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。委員会の運営についての細則は、理事会において定める。

4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を、会長は委員に説明しなければならない。

5 委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員1名以上が出席し、かつ、外部委員の1名以上が賛成することを要する。

(評議員の任期)

第7条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期が満了する時までとする。

3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

第8条 評議員の報酬については、各年度の総額が200,000円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、法人が定める役員等報酬規程により支給することとし、役員の地位にあることのみによっては、支給しない。

第3章 評議員会

(構成)

第9条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

(権限)

第10条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認
- (9) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第11条 評議員会は、定時評議員会として毎会計年度終了後3ヶ月以内に1回開催するほか、3月及び必要がある場合に開催する。

(招集)

第12条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

- 2 評議員は、会長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(議長)

第12条の2 評議員会に議長を置き、議長は、その都度評議員の互選で定める。

(決議)

第13条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) その他法令で定められた事項

- 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者の第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第15条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

- 4 第1項及び第3項の決議において、表決が可否同数のときに議長の決議権を行使するものとする。

- 5 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることが

できるものに限る。)の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第14条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 評議員会の議長及び出席した評議員のうちから評議員会から選任された議事録署名人2名は、前項の議事録に署名し、又は記名押印する。

第4章 役員及び職員

(役員の数)

第15条 この法人には、次の役員を置く。

(1) 理事 6名以上13名以内

(2) 監事 3名

2 理事のうち1名を会長とする。

3 会長以外のうち4名を業務執行理事とし、その中から3名を副会長とする。

4 第2項の会長をもって社会福祉法の理事長とし、第3項の副会長をもって同法第45条の16第2項第2号の業務執行理事とする。

5 会長は、この法人を代表する。

6 役員を選任に当たっては、各役員について、その親族その他特殊の関係がある者が、理事のうち3名を超えて含まれてはならず、監事のうちにこれらの者が含まれてはならない。

(役員を選任)

第16条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2 会長及び業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

3 監事は、この法人の理事、評議員、職員及びこれらに類する他の職務を兼任することができない。

4 役員を選定に関する規程は、別に定める。

(理事の職務及び権限)

第17条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、業務執行理事は、定款施行細則及び理事会において別に定める法人会則等により、この法人の業務を分担執行する。

3 会長及び業務執行理事は、4箇月を超える間隔で年に2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第18条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第19条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 任期の満了前に退任した役員の補欠として選任された役員の任期は、退任した役員の任期が満了する時までとする。

(役員解任)

第20条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第21条 役員報酬については、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を法人が定める役員等報酬規程により支給することとし、役員の地位にあることのみによっては、支給しない。

(職員)

第22条 この法人に、職員を置く。

2 この法人の設置経営する施設の長及び事務局の長（以下「施設長等」という。）は、理事会において、選任及び解任する。

3 施設長等以外の職員は、会長が任免する。

第5章 会員

(会員)

第23条 この法人に会員を置く。

2 会員は、この法人の目的に賛同し、目的達成のため必要な援助を行うものとする。

3 会員に関する規程は、別に定める。

第6章 理事会

(構成)

第24条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

第25条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては 会長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 会長及び業務執行理事の選定及び解職

(議長)

第25条の2 理事会に議長を置き、議長は、その都度理事の互選で定める。

(招集)

第26条 理事会は、会長が招集する。

2 会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、副会長が理事会を招集する。

(決議)

第27条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第28条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した会長及び監事は、前項の議事録に署名し、又は記名押印する。

第7章 資産及び会計

(資産の区分)

第29条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、その他財産、収益事業用財産の3種とする。

2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

- (1) 鹿児島県西之表市16314番地4所在の鉄筋コンクリート造陸屋根平家建
若宮保育園 園舎 1棟（696.60平方メートル）
- (2) 鹿児島県西之表市16314番地4所在の木造スレート葺平家建

倉庫 1棟 (36.86平方メートル)

(3) 鹿児島県西之表市16314番地4所在の木造平家建

支援センター 1棟 (11.14平方メートル)

(4) 鹿児島県西之表市16314番地4所在の木造平家建セメント瓦葺平家建

多目的遊戯室 (54.15平方メートル)

3 その他財産は、基本財産、収益事業用財産以外の財産とする。

4 収益事業用財産は、第38条に掲げる収益を目的とする事業の用に供する財産とする。

5 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第2項に掲げるため、必要な手続をとらなければならない。

(基本財産の処分)

第30条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承認を得て、鹿児島県知事の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、鹿児島県知事の承認は必要としない。

(1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合

(2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資に係る担保に限る。）

(資産の管理)

第31条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、会長が管理する。

2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

(事業計画及び収支予算)

第32条 この法人の事業計画書及び収支予算書書類については、毎会計年度開始の日の前日までに、会長が作成し、理事会及び評議員会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所及び従たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第33条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

(1) 事業報告

(2) 事業報告の附属明細書

(3) 貸借対照表

(4) 収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）

- (5) 貸借対照表及び収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）の附属明細書
 - (6) 財産目録
- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。
- 3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間、また、従たる事務所に3年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所及び従たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。
- (1) 監査報告
 - (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
 - (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
 - (4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第34条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第35条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第36条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意がなければならない。

第8章 収益を目的とする事業

(種別)

第37条 この法人は、社会福祉法第26条の規定により、次の事業を行う。

- (1) 社会福祉法人施設等で使用する帳簿用紙の販売事業
 - (2) 物品の販売事業
 - (3) その他の収益を伴う事業
- 2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

(収益の処分)

第38条 前条の規定によって行う事業から生じる収益は、この法人の行う社会福祉事業に充てるものとする。

第9章 解 散

(解散)

第39条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第40条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う公益法人等のうちから選出されたものに帰属する。

第10章 定款の変更

(定款の変更)

第41条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、鹿児島県知事の認可（社会福祉法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を鹿児島県知事に届け出なければならない。

第11章 公告の方法その他

(公告の方法)

第42条 この法人の公告は、社会福祉法人鹿児島県保育連合会の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞 又は電子公告に掲載して行う。

(施行細則)

第43条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則

この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、その任期は、第6条第1項の規定にかかわらず平成19年3月31日までとする。

理事 7名

会 長	伊 東 安 男
理 事	羽 生 悦 朗
理 事	下 園 守 昭
理 事	東 福 泰 則
理 事	川 東 節 男
理 事	中 園 正 吉
理 事	樽 谷 勇

監事 2名

監 事	大 丸 法 照
監 事	吉 徳 伸 一

附 則

この定款の変更は、鹿児島県知事の認可を受けた日から施行する。

(役員定数変更について)

平成19年 3月20日

附 則

この法人の評議員会設立当初の評議員の任期は、第17条第1項の規定にかかわらず平成21年3月31日までとする。

この定款の変更は、鹿児島県知事の認可を受けた日から施行する。

(評議員会の設置について)

平成20年 3月10日

附 則

この定款の変更は、鹿児島県知事の認可を受けた日から施行する。

(役員及び評議員の定数変更について)

平成21年 3月31日

附 則

この定款の変更は、鹿児島県知事の認可を受けた日から施行する。

(子育て拠点事業及び一時預かり事業について)

(多目的遊戯室の新築について)

平成23年 1月 5日

附 則

この定款の変更は、鹿児島県知事の認可を受けた日から施行する。

(事業目的の追加・資産の変更・収益を目的とする事業について)

平成25年 9月 9日

附 則

この定款の変更は、鹿児島県知事の認可を受けた日から施行する。

(理事・評議員の定数変更について)

平成27年 7月 3日

附 則

この定款の変更は、鹿児島県知事の認可を受け平成29年4月1日から施行する。

(社会福祉法人定款例に伴う改定について)

平成 年 月 日